

インターンで収穫したもの

京都大学理学部生物科学科 3年 京塚和佳奈
(配属先：形態形成シグナル研究グループ)

私が参加させていただいたのは、ショウジョウバエ胚の発生のライブ観察と画像解析をする形態形成シグナル研究グループです。答えが用意されている学生実験とは異なり、研究室の先生すら答えを知らない問題を考察しました。研究員の方につきっきりで見させていただきながら普段は使えないような顕微鏡を使って観察を行いました。明確な答えが見つかったわけではなく、研究の余地がたくさん残っているということがわかりました。私達にもまだまだ仕事は残されているようで安心しました。ショウジョウバエ胚の発生についてインターン参加前より知識は増えたはずですが、疑問はもっと増えました。知れば知るほどわからないことが増えていくという研究の醍醐味の一端を味わったような気分でした。

このインターンで私が想像していたより大きな収穫となったのは、インターン参加生との交流です。もちろんインターン生との交流を楽しみにしながら参加しましたが、彼らは思っていた以上に知的かつ社交的でした。皆生物学や発生学に興味を持っていることは共通していますが、それぞれが特に興味を持っていることやそれへのアプローチ方法は異なっていました。普段は会うことができない違う地域・大学・分野の、意欲のある仲間と出会えたことで、自分はまだまだ勉強が足りないことが浮き彫りになりました。勉強や研究の話だけでなく、歓迎会や打ち上げでいっしょに騒げたのもとてもいい思い出です。彼らとの貴重な出会いは Facebook やメーリングリストなどのつながりで保存されています。

今回のインターンはたった5日間だったとは思えないほど濃いものでした。充実した研究・発表ができたことも、インターン生や先生方との交流が楽しめたのも、企画・運営・補助をしてくださったCDBのスタッフの皆さんのおかげでした。本当にありがとうございました。



林ラボでの様子：林GD（左から2番目）、京塚さん（右から2番目）